

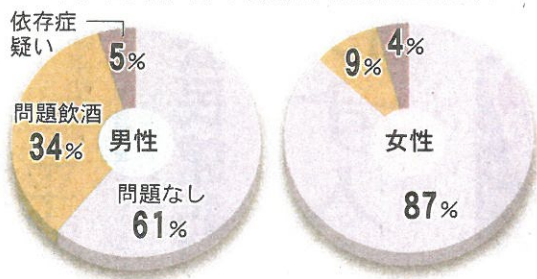
飲酒問題 早期に指導

中部病院に専門医の相談室

県立中部病院(平安山英盛院長)に今年2月から、専門医によるアルコール相談室が開設された。飲酒による健康被害や正しい知識、適切なアドバイスなど専門家による早期介入で、アルコール問題の解消や専門受診につなげることを目的としている。県立病院での同相談窓口は初めて。

(赤嶺由紀子)

外来受診者の飲酒問題調査結果



減酒方法・治療の有無判断

対象は同院の入院患者や外来患者で、何らかのアルコール問題を抱える人、または家族などで相談の希望者。毎週木曜日に無料で実施(基本は予約制)。国立病院機構琉球病院(村上優院長)の医師と看護師が相談にあたる。

を挙げ「飲酒に対して寛容な文化がある。多量飲酒につながる恐れがあり、疾患に至る前の早い段階での介入が必要」としている。同院が2007年に県内中北部の4総合病院の外来患者421人を対象に実施した飲酒問題調査では「依存症疑い」が男性で5%、女性4%、「問題飲酒(依存症予備軍)」は男性34%、女性9%だった。

相談では、アルコールの問題を把握する簡易検査(AUDIT)を用いて点数化。総合的に判断した上で、酒量の減らし方や頻度の低減、治療が必要かどうかの判断などをアドバイスする。状況に応じて専門機関を紹介する。

琉球病院の福田貴博医師は「依存症とは飲酒の回数や量、状況などをコントロールできない状況にある人がその疑いがある」と指摘。模合やビーチパーティー、朝方まで開店している居酒屋など沖縄の飲酒環境

がその疑いがある」と指摘。模合やビーチパーティー、朝方まで開店している居酒屋など沖縄の飲酒環境

県立病院で初開設

相談の問い合わせは中部病院地域医療連携室、電話098(973)4111。